

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 日本赤十字社 浜松赤十字病院

受審施設の概要

日本赤十字社浜松赤十字病院健康管理センターは、静岡県浜松市にあり、昭和49年に健康相談センターとして開設され、平成2年に移転して健診センターを開設、平成19年に現在の地に移転された。一般病床312床を有し、地域医療支援病院・災害拠点病院等に指定されている病院の併設施設である。

年間の受診者数は、一日ドック約4,900人、二日ドック約5人、その他健診約8,500人を実施している。検診車による巡回健診を約10,000人実施していたが、2019年3月をもって受託を終了した。

本機能評価は2015年に初回の認定を受け、今回が1回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

病院の理念と基本方針の他に健康管理センター独自の理念・基本方針が策定されており、毎年見直しが行われている。

個人情報保護に向けては、病院と共通の個人情報保護方針が掲げられており、安全対策上の問題が確認された場合は、医療安全対策会議を経て対策・対応を検討する仕組みが整っている。eラーニングを利用するなど、講習意欲を高めるとともに学習の確認も行われている。

就業規則等各種規定は、赤十字の規則に基づいて策定されている。倫理委員会も設置されており、健康管理センターからも委員が選出され、適切に行われている。外部の有識者が参加する仕組みもある。また、相談窓口は、内部担当職員だけではなく契約している外部の窓口にも相談できる仕組みがある。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等は、病院の一部として作成されているが、健康管理センターとしての目標や事業計画は明確化されている。

職員の組織体制は、院内組織図により確認できる。また、院内には42の委員会・部会が設置されており、健診に関連する14の委員会に健康管理センター職員が所属している。

健診部長を含めた2名が人間ドック健診専門医を取得しており、人間ドック健診情報管理指導士も取得している。その他、病院併設型の利点を生かし、各項目における専門医が読影・結果判定を実施する仕組みが整っている。病院総務課が管理しており、調査時には病院兼務と非常勤医師の在籍書類確認ができなかった。

医師以外の職種は、人間ドック健診情報管理指導士が7名、人間ドック健診食生活改善指導士が1名健診に従事されており、充実している。

教育体制については、病院内に設置されている教育研修推進室の年間計画に基づいて教育研修を行っている。教育の仕組みとしては、eラーニングを活用して効率的に実施されており、進捗状況も把握できるようになっている。

医療安全管理体制については、院内に医療安全推進室が設けられており、医療安全管理委員会・院内感染防止対策委員会を通じ、適切な管理が行われている。災害拠点病院として系統的な管理がなされており、職員の意識も高いと思われる。

情報の管理体制は、サーバー室は病院と共有されており、入退室に権限が付与

されており、厳しく管理されている。職員対象の情報セキュリティ研修も行われている。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、病院全館がバリアフリー対応されており、車いすでの利用もスムーズである。車いすの貸し出しも実施している。高齢者に対しては積極的に歯科検診を推奨している。

外国人受診者については、地域の特性上、ポルトガル語と英語の受診案内・問診票・結果表を準備している。通訳がない場合でも可能な限り、通訳可能な職員を用意して対応している。年間約500名前後の実績もあり、特筆すべきことである。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

健診にあたっては、事業推進係・業務係の担当者が契約から健診実施までを一括管理している。予約・受付の業務は、マニュアルに沿って行われており、会計処理は健診責任者の確認を経て、病院の会計課へ収める仕組みになっている。会計報告・未収金報告は業務連絡会等で管理されている。

検査項目は、人間ドック学会の基本検査項目を実施している。新しい検査の導入についても、定期的な検討と実施がなされている。

受診しやすくするための取り組み・受診者の希望に対応する取り組みが見られ、ゴールデンウィーク連休にも健診を実施している。レディースデイや休日の健診設定はなく、今後検討されたい。健診フロアは病院から独立しており、健診専用の待合スペースや検査スペースが有されている。女性受診者は、希望があれば専用の待合スペースが利用できる。

受付の人数を増やして仕事を分担することで受付がスムーズに進むよう改善されている。ホームページには健康管理センターの基本方針や予約方法・健診の案内が明示されるなど、受診者への健診当日に関する情報提供は適切である。医療面接、診察、各検査、結果説明の担当者は明確である。受診者が安心して検査を受けられるように、ドック担当看護師が前日までに受診者の既往歴や前回歴、アレルギーや禁忌情報等を確認しており、前日のミーティングにてスタッフ全員で共有している。スタッフ全員が毎年BLS訓練を受け、急変時対応の知識と実技を習得している。併設病院の救急科が健診施設に隣接しており、即座に搬送可能である。

精度管理体制は確立されており、検体検査は外部精度管理サーベイへも参加し良好な成績を得ている。生理・画像などの各種検査については、機器の定期点検やトラブル対応が適切になされている。腹部超音波検査の外部精度管理に参加し、内視鏡は日本消化器内視鏡学会の指導施設認定を受けている。

検査結果の判定基準は日本人間ドック学会策定の判定区分を使用している。健診結果の表示は、前回のみであったが3年分並記に変更されている。画像などの読影・判定体制は確立され、読影や判定について検討する場がある。人間ドック健診専門医によるダブルチェックがなされ、心電図は必要な場合に循環器科医が関与し、眼底は眼科医が読影している。

医療面接は、看護師が健診の一番最初行っている。

医師による結果説明は1日ドック96.7%、二日ドックは100%である。診察とは別であり、マンモグラフィ・オプション検査の一部を除いた全ての項目について、成績書とパソコンでの画像を提示しながら説明が行われている。説明後には、保健師による結果の確認および受診勧奨が行われており、受診者の結果の理解度を

確認している。当日に結果を渡している。今後、当日の結果説明内容と後日送付される最終結果報告書との整合性をはかるために、結果説明内容の記録があることが望ましい。

保健師7名・看護師1名による保健指導が人間ドック受診者全員を対象に行われている。保健師は人間ドック健診情報管理指導士を、看護師は人間ドック健診食生活改善指導士を保有している。指導リーダーを中心にスタッフ教育が行われ、月1回の事例検討などスキルアップに努めている。保健指導は一日ドック95.8%、二日ドック100%実施されている。必要に応じて管理栄養士や歯科衛生士も関与し、個々の受診者に合わせた指導が出来るよう努めている。指導内容は健診システムに入力され、次の健診時に確認されており、継続支援に繋がっている。今後さらに専門スタッフの関与（運動指導士、理学療法士など）が期待される。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、病院正面玄関に意見箱が常時設置されている。健康管理センターでも2019年1月にアンケート調査が実施されており、業務検討委員会で検討されている。分析・検討するために質問内容を部門ごとに詳細にされることを期待する。改善事例として、温度調整のためにフリースを常備、更衣室のカーテンの位置変更、希望者増加に伴う上部消化管内視鏡室の拡張と内視鏡の本数増加などがある。

フォローアップ体制は確立されている。要精検率は10%以下、精検受診率は70%~100%と適切である。ただし、内視鏡検査の要精検率は10%以下となるよう検討を望む。悪性疾患が強く疑われる場合は、健診当日に併設病院の適切な科への即日受診や精密検査が実施されている。受診先の医療機関からの結果報告も管理され、依頼状の返信がない場合は6ヶ月後に受診勧奨を行っている。

血圧・糖尿病関連・脂質関連検査の要治療指示者へのフォローアップについては、受診把握率は57%~70.5%である。保健師による保健指導で必ず受診勧奨が行われており、併設病院への受診希望者にはその場で予約がとられている。次回健診時には、前回の受診結果が問診票に記入され、総合判定・結果面談・保健指導の際に適切に活用されている。一方、糖尿病関連・脂質関連検査の追跡検査指示率は1%未満と低く、判定基準の再考を促したい。かかりつけ医がいる場合は追跡検査や経過観察の対象から除外されている。

紹介医療機関やかかりつけ医との連携体制は適切である。開放型病院会議や医師会主催のがん検診講習会の症例検討など参加し、情報交換や協力要請がなされている。

健診結果の分析については、年報に受診者統計が掲載されており、人間ドック学会などが実施する調査への参加協力は適切である。学会で演題発表が行われており、発表に際して適切な倫理審査が実施されている。今後さらに健康管理センターの発表や論文の活動が期待される。

受診者に向けた有用な情報提供としては、結果に同封する冊子や院内掲示物を工夫し、啓発活動を行っている。院内の図書館は健診受診者にも開放されており、昼食後に多くの利用者がある。地域住民を対象に日赤フェスティバル・いきいき健康塾が開催され、ロコモティブシンドローム予防等、健康保持増進について栄養・運動指導が行われている。

健康経営にむけた取り組みとしては、定期的に企業を訪問し、要望の把握とともに健康情報の提供を行っている。

業務改善の体制としては、健康管理センター内に業務検討委員会が設置されており、契約管理から健診業務の内容・アフターフォローに至るまで、定期的に話し合いの場が持たれており、改善につなげている。

総括

人間ドックの充実にむけて、当日の結果説明・保健指導を積極的に実施しており、業務改善意欲の高さが感じられる。事務管理については、病院併設型の特性を生かし、系統的な仕組みが構築されている。

最新の情勢にあわせて常に見直しが行われており、その方針が職員にも浸透し体現できている。機能評価受審を改善に繋げるしくみができていることとあわせて高く評価したい。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（更新）に値すると判断する。

審査日 2019年10月10日

認定承認日 2019年10月26日